

# さあ、大学だ！勉強！

## 4 本学若手教員からのアドバイス

### 経営学はこう学べ 経営学を学ぶ姿勢

#### 阿部 圭司

勉強法というのであれば、試験

対策や、適切と思われる書籍を紹介すれば良いのですが、それが求められているわけではなさそうなので、困りました。実はこういうリクエストに応えるのが一番難しい。論文を書くより難しい。大体私（阿部）は適任なのか？

それはともかく、結論から言ってしまうと、普通の生活で目にするものが、そのまま経営学の教材になります。なんてありきたりなので書いているところが恥ずかしくありませんが、真実だと思います。書籍（あるいは講義）で学ぶ「経営学」はあまたあるケースの最大公約数に過ぎないので、本当に「経営」を学んだことにはならないと思うのです。

#### ◆学園祭の模擬店だって経営学だ

身の回りの例として、学園祭で君の所属するサークルでは、屋台で食べ物を出すことになったとしましょう。食材の仕入れ、テントや調理器具などのレンタル代はどれくらいでしょうか？開店するにあたっていくらか予算が必要になるでしょうか？資金をどうやって調達するのでしょうか？調理、販売はどういう手順で行うのでしょうか？どう宣伝したら良いのでしょうか？商品の値段はいくらにしたら良いでしょうか。薄利多売？それとも高くても味で勝負？調理、販売、お金の管理、交代も含めて誰をどう担当させたら良いでしょうか？食材の残り、ライバル店の状況や閉店時間をにらんで、値段を下げるべきでし

ようか？すべてが終わり、運良く利益が出ました。利益はサークルの予算に入れてしまうのでしょうか、それとも打ち上げで使ってしまうのでしょうか？「ヒト、モノ、カネ」といいますが、経営はこれらに関する意思決定の連続です。上記の例にはそのすべてが含まれていません。また、成功した企業について書かれた書籍を読んでみるのも良いでしょう。そして、観察したこと、感じたことを心に留める習慣をつけましょう。

#### ◆ヒト・モノ・カネのつながりと流れを意識しよう

経営学では、「ヒト、モノ、カネ」はそれぞれ組織、営業（生産、販売）、そして財務などの名称で分類され、分析されています。君が観察したこと、感じたことは、ヒト・モノ・カネのどの分野に当てはまりますか？関連する分野についての書籍にあたってみると、君が観察したこと、感じたこと、あるいは気づかなかったことが整理されて紹介されています。経験を介して得た知識ほど自分の中に根付くものはあ

りません。現実で観察したことを経営学の体系で確認する。おそらく、この繰り返しですが経営学を学ぶ姿勢なのではないかと思うのです。



#### 阿部 圭司 (あべ けいじ)

経済学部助教授。

1992年新潟大学経済学部卒業、97年早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。97年から高崎経済大学経済学部専任講師、現在助教授。講義は証券論、財務管理論を担当。専門は証券市場論、企業財務、コンピュータリテラシー。現在は利益予測など市場に公開される情報と株価変動の関連性、新規公開企業の評価が主な研究テーマ。